

接種開始月齢 生後3か月になってから

\*ジフテリア百日せき破傷風不活化ポリオ(DPT-IPV)予防接種を受けるまえに

接種年齢：生後3か月から7歳6か月未満

接種方法：皮下接種(合計4回接種)

前回接種日を0日として21日目より接種可能です

1期初回：20日以上、標準的には56日までの間隔を空けて3回接種

1期追加：1期初回接種終了後1年～1年半までの間隔を空けて1回接種

すでにジフテリア・百日せき・破傷風(DPT)ワクチンまたはポリオワクチン(生・単独不活化)のいずれかの接種を1回以上受けている方

ジフテリア・百日せき・破傷風(DPT)ワクチンまたはポリオワクチン(生・単独不活化)の不足回数分を4種混合ワクチンで接種することが可能です。接種スケジュールについては医師または保健センターにご相談ください。

\*1期の接種回数が不十分な場合、ジフテリア破傷風(2種混合)2期(11歳～13歳未満でDT)の接種の際、自費で接種が数回必要になる場合があります。4回確実に接種しましょう。

接種場所：市内指定医療機関

持ち物：母子健康手帳・予診票・体温計・筆記用具

母子健康手帳を忘れた場合は接種できませんので必ずご持参ください。

**注意！野田市外に住民票をうつした場合、野田市の予診票を使って接種することはできません。必ず転出先の市区町村でご確認ください。予診票は複写式になっているので、1回分ずつ取り出して記入するようにしてください。(他の予診票に字が写らないように注意してください。)**

接種の前に、この説明書をよくお読みください。

予防接種は体調のよいときにお受けください。

予防接種はお子様の体調がよくわかる保護者の方がお連れください。

予診票に記入漏れがあると接種できない場合があります。責任をもって記入してください。ボールペン等、消えない筆記用具で記入してください。

病気で治療中の場合や何らかの薬を飲んでいる場合は、主治医に相談してから受けるようにしましょう。

**【ジフテリアとは】**ジフテリア菌による細菌性呼吸器感染症です。発熱・咽頭痛・頭痛・倦怠感・えん下痛などで始まり、鼻づまり・鼻血・かすれ声・呼吸困難・呼吸筋の麻痺などが続きます。適切な治療や予防接種で重症になることはまれとなりましたが死に至ることもある病気として注意が必要です。

**【百日せきとは】**コンコンと激しくせき込んだ後ヒューと笛を吹くような音をたてる特有のせきが、およそ百日にわたって続く、百日せき菌による細菌性呼吸器感染症です。かぜ症状から始まり特有なせきが発作的に現れます。約1か月を過ぎるとせきの回数は少なくなりますが、回復には3か月ぐらいかかることもあります。合併症として、肺炎・鼻血・結膜出血があります。また激しいせきの後に脳出血を起こし死亡することがまれにあります。

**【破傷風とは】**けがをしたときに土の中にいる破傷風菌が傷口に入って起こります。小さな傷からも感染することがあり、菌の毒素により神経の麻痺や筋肉のけいれんを起こし、死亡する確率の高い危険な病気です。自然感染による免疫は期待できない為、予防のためにもワクチンを接種して免疫をつけておく必要があります。

裏面に続く

**【ポリオとは】**ポリオ（急性灰白髄炎）はポリオウイルスによっておこる病気で、1～2日のかぜ症状のあと、突然手足の麻痺が現れる感染症で、その麻痺は一生残ってしまうことが少なくありません。現在では予防接種の効果で国内の自然感染は報告されていませんが、海外ではまだポリオが流行している地域があります。そのため、国内に持ち込まれた場合、流行する可能性があります。ポリオを予防する唯一の方法は予防接種を受けることです。平成24年9月に病原性をなくした不活化ポリオワクチンの予防接種に切り替わりました。

### 副反応について

全身の症状としては発熱、下痢、嘔吐などがみられますが数日以内におさまります。また接種部位の局所症状としては痛み、赤み、腫れることがあります。ただし、腫れがひどい場合は接種部位を清潔にし、冷やして様子を見てください。

なお、きわめてまれに重大な副反応としてショック、アナフィラキシー様症状があります。

### こんなときは受けられません

発熱しているとき（接種会場で体温が37.5以上ある場合）

\* 平熱が高い人は主治医に相談してください。

重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合。

このワクチンの成分により、アレルギーを呈する恐れが明らかな場合。

麻しん風しん混合（MR）・水痘・おたふくかぜ・結核（BCG）・ロタウイルスなどの予防接種をして、27日以上経過していない場合。ヒブ感染症・小児の肺炎球菌感染症・B型肝炎・日本脳炎・インフルエンザなどの予防接種をしてから6日以上経過していない場合。

令和2年10月1日より、他の予防接種との接種間隔について変更の予定です。詳細は、保健センターにお問い合わせください。

麻しんにかかり、治ってから4週間程度経過していない場合。風しん・水痘・おたふくかぜなどの病気にかかり、治ってから2～4週間程度経過していない場合。突発性発疹・手足口病・溶連菌感染症・伝染性紅斑（りんご病）などの病気にかかり、治ってから1～2週間程度を経過していない場合。（いずれの場合も医師の診察で予防接種の適否が判断されます。）

その他、医師が予防接種を受けることが不相当と認めた場合。

### こんなときは受ける際に注意が必要です

心臓病・腎臓病・肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けている場合。

これまで予防接種で、接種後2日以内に発熱及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常がみられた場合。

過去にけいれんを起こしたことがある場合。必ず事前に主治医に相談してから受けるようにしましょう。

過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる場合。

### 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

<問合せ先> 保健センター ☎04-7125-1188  
関宿保健センター ☎04-7198-5011

